

平成24年度(2012年度)宝塚市きずなづくり推進事業補助金

No.	申込団体名	自己評価			評価	
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
1	仁川高丸自治会	<p>「きずなイン高丸座」</p> <p>【実施時期】 平成24年7月中旬プレオープン、8月20日より正式オープン 以後 毎週月曜日(年末年始除く) 9時～12時まで</p> <p>【場 所】 仁川高丸のほぼ中心地 2丁目17-4の社協借上げ民家</p> <p>【内 容】 自治会役員及びボランティアで、モーニング喫茶(コーヒー、菓子パン、ゆで卵)程度を、1人100円で提供。</p> <p>【参加者】 毎回15～20名 33回開催で延べ601名</p>	35,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を対象とした事業で、「きずな」を必要としているために感謝されている。</li> <li>2. 地域の情報が得られ、仁川ケアセンターへの橋渡しと民生委員との連絡にも役立った。</li> <li>3. 1日中 誰とも話をしない高齢者が多く、家から近くで気軽に参加でき、時にはコーラスを楽しむ等、笑顔で帰宅される。</li> </ol>	(市民協働推進課) 地域の空き家を活用して、地域住民による運営がされており、参加者が増加していることは、意義あることと考えます。地域の高齢者の居場所として、また情報交換の場と地域に根付くよう期待します。	高齢化が進む中、今後ともこの種のニーズは高まると思われ、全市的なモデルとなる取り組みとして評価します。こうした地道な活動が市域全域で広がることを強く願います。行政側も、この成功事例の他地域への応用・展開をしっかりと検討していくことが望まれます。
2	逆瀬台自治会	<p>「逆瀬台夏祭り」</p> <p>【実施時期】 平成24年7月28日(土)</p> <p>【場 所】 せいらい逆瀬台デイサービスセンターの中庭(駐車場)、2階(地域交流センター)</p> <p>【回 数】 年1回(今年で17回目)</p> <p>【内 容】 ①ハワイアンバンド演奏、フラダンスの実演と講習 ②曲技太鼓演奏 ③焼きそば、たこ焼き、綿菓子、とうもろこし、ビール、ジュース、ラムネ、お茶等の販売 ④子供お遊び館：スーパーボールすくい、輪投げ、射的、ダーツ等のゲーム ⑤バザー ⑥野上出前児童館お遊び広場：うちわづくり ⑦包括支援センターによるロコモチェック&amp;健康相談</p> <p>【参加者数】 約1200名</p>	50,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏祭りにふさわしい天候のもと、熱中症などの病人も出ることなく、昨年の2割増しの来場者があり、盛会であった。</li> <li>2. 高齢化の進んだ逆瀬台地区であるが、逆瀬台へ里帰りというパターンが定着し、子供の来場者が増加傾向である。浴衣を着た孫と来場する高齢者も増えた。</li> <li>3. 逆瀬台自治会地区以外の近辺のマンション群、青葉台・光が丘、野上地区からも来場者があり、周辺地域全体のイベントとして定着してきた。</li> <li>4. 準備から本番、後片付けまで150名をこえる自治会員がスタッフとして参加し、祭りを盛り上げようと協力しあうことにより、地域住民同士の絆が密接になり、一体感が深まった。</li> <li>5. 今年度「きずなづくり推進事業補助金」50,000円を交付され、永年の懸案だった夏祭り専用の屋外電源を設置できたことにより、次年度からは38,000円の経費節減ができる。「きずなづくり室」関係者に感謝する。</li> </ol>	(市民協働推進課) 地域住民が力を合わせて、イベントの企画・実行をされており、相互の協力がいざという時の地域の力になると考えます。今後は、さらなる地域活動に結びつくよう、担い手の育成に期待します。	本補助金が地域をつなぐイベントの経常的な経費削減に貢献し、より一層事業の活性化が図れたことは評価に値すると思えます。来年度以降もさらに活性化への取り組みを進められることを期待します。
3	もくもく会	<p>「市民とともに「守り・育む宝塚の農」への支援」</p> <p>●一般受講者(市民)への説明</p> <p>【実施時期】 6回開催 平成24年7月21日～平成25年3月16日</p> <p>【場 所】 西公民館、西谷公民館、堺ハーベストの丘</p> <p>【内 容】 「農と食の講座」を開催ごとに、定例会の状況報告、意見交換をして、参加者からの要望として関係先へ連絡した。</p> <p>●生産農家へのサポート支援</p> <p>【実施時期】 9回開催 平成24年6月18日～平成25年3月12日</p> <p>【場 所】 大原野宇岩鼻ほか</p> <p>【内 容】 生産農家の指示で雑草取りや収穫補助作業など。</p>	15,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西谷地区の生産農家3軒との交流支援により、農業に対する苦労話、問題点、今後の課題と考え方を聞き、農作業の苦しみと事業性の厳しさを感じる反面、強靱な意志も感じた。</li> <li>2. 各会合で報告することにより、地元生産農家の顔が見え、消費者として生産物への価値観と思いやりが向上し、変化ができた。</li> <li>3. 今後の課題として、 ①後継者・担い手不足 ②生産農家の営農意欲の向上 ③第2名神高速道路スマートインターチェンジ開設に伴う地域環境整備があり、中長期的な対応策が必要となる中で、食育も含めた「地産地消の向上」への足掛かりが出来つつある。</li> <li>4. すぐに効果は期待できないが、今後も状況の変化を見ながら継続したい。</li> </ol>	[農政課] 平成23・24年度の農政課主催の講座参加者で組織され、宝塚市の農業の将来を危惧し、側面から市に協力することも視野に活動されています。 活動の基本となるべき宝塚市農業基本計画はスタート直後でもあり、当会の思うような事業への取り組みができず、主に農業体験や農業情報の蓄積に取り組みされました。 今後とも一定の協力は惜しまないと伝えられており、力強い支援組織と評価します。	市内の一次産業の継続は、宝塚市の重要な政策課題です。事業目的は立派で意欲的ですが、会議費のみで企画自体が開催出来なかったことはまことに残念です。参加者からの要望を活動に移すための具体的な方策が示されることを望みます。行政との協働にもとづく解決策を期待します。

No.	申込団体名	自己評価			評価	
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
4	西逆瀬川自治会	<p>長寿社会を生きる—連続集会以「きずなづくり」</p> <p>【実施時期】 2012年9月17日(土曜)13時～15時 【場 所】 西逆瀬川自治会館 【内 容】 ①第1部 敬老の日の集いで、神戸在住の北朝鮮拉致被害者 有本恵子さんの両親、父 有本明弘氏(84) 母 嘉代子さん(86)を招いて、「長寿社会を生きる」をテーマに講演会。明弘氏「残り時間は少ないが、頑張る」嘉代子さん「もう一度、娘を抱きしめてやりたい」と講演。質疑応答では、「頑張って元気でいて下さい」「私たちに何ができますか?」などの激励の声がかかる。 ②第2部 宝塚の社会人落語家「浪漫亭不良雲」さんの落語会で、癒しの時をもった。 【参加者数】 第1部 80名、第2部 50名</p>	25,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単身高齢者やサロンという女性達の空間には、自治会活動に参加しにくい男性が、これを機に自治会館に向きかけとなった。</li> <li>2. 参加者は老いても関わり親の姿や、引き離された親子関係の話を聞くことによって、生きる勇氣と力をもらい、長生きの意味を学ぶ契機となった。</li> <li>3. 日朝首脳会談から10年、講演を聞いて人権啓発の機会となった。</li> <li>4. 有本さん夫婦への励ましと支援の輪が、地元兵庫の住民同士に拡がり、エール交換ができた。</li> <li>5. 拉致問題の講演会を継続することで、風化を防止、新聞報道で世論に喚起できた。</li> <li>6. 会館の存在を、参加者の口コミや報道で知ってもらい、使用率アップにつながった。</li> <li>7. 敬老の日の集いを契機に、11月18日のジャズ&amp;講演会、12月22日のクリスマス忘年会など、自治会館が住民で埋まるイベントにつながり、地域の絆が広がった。</li> <li>8. 中川宝塚市長から、有本さん夫婦にコメントをもらい支援の輪が広がった。</li> <li>9. 「本補助金を活用し、自治会館を拠点とし、公開講座等を通して、自治会や周辺住民の交流がさらに活発に」と指導があり、80名の参加者人数はそれをクリアした。</li> <li>10. この事業を報道したメディア:神戸、朝日、毎日、読売新聞、共に阪神版、NHK兵庫OA)</li> </ol>	<p>(いきがい福祉課) 有本夫妻による拉致問題をテーマとした講演会という関心の高い事業内容であったことから、多くの参加者があったことは当事業の目的であった住民同士の顔の見える関係を築く契機になったものと考えます。 また、今回の取組を契機に、住民が声を掛け合い、地域のイベントに参加することで、住民同士のつながりが強くなるとともに、地域コミュニティが活発になり、地域における助け合いなど地域福祉が推進されるものと考えます。</p>	<p>地域の人が集まりやすい行事、興味のある話など企画力があり、事業内容・構成自体もしっかりとしています。メディアへの露出も大きかったことから、多くの参加者があり、住民同士のつながりと地域福祉の推進に役立ったことを評価します。今後の地域活動の充実と住民のつながりをつくりだす取り組みに期待します。</p>
5	末成小学校地域まづくり協議会	<p>「基礎学力習得支援事業(寺子屋塾事業)」</p> <p>【実施時期】 平成24年9月10日～平成25年3月18日 毎月曜日の14:30～16:00 【場 所】 末成小学校 南館1階 多目的ホール 【回 数】 19回(H24/9/10, 24, 10/15, 22, 29, 11/5, 12, 26, 12/3, 10, 17, H25/1/21, 28, 2/4, 18, 25, 3/4, 11, 18) 【内 容】 ①学校の宿題を終えた分をチェック、間違いがあれば指摘し、考え直させ正解を導きだすのを支援 ②宿題を終えたら、寺子屋で用意した国語や算数のプリントに挑戦させ、終了後にチェック ③礼儀やマナーを啓発 【参加者数】 小学生 : 延べ 583名 1回あたり 31名 ボランティアスタッフ: 延べ 173名 1回あたり 9名 スタッフ会議 : H24/8/22, 9/3, 24, 10/29, 11/26, 12/17, 2/15, 3/15 計8回開催 延べ 73名参加</p>	39,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子供達は寺子屋の開催を楽しみにしており、参加数が予想を超えた。</li> <li>2. 国語や算数のプリントに挑戦するなど、勉強に対する意欲を感じた。</li> <li>3. 入口で上履きを揃えたり、挨拶をするようになり、礼儀やマナーを少しずつ身に付けている。</li> <li>4. スタッフとの間に絆ができたため、寺子屋以外の場所で出会った時、挨拶をしてくれたり、スタッフから声をかけられるようになった。</li> <li>5. 基礎学力取得を支援することにより、スタッフの脳細胞が刺激されるとともに、元氣ももっている。</li> <li>6. 寺子屋での子供達の支援が、保護者の支援につながり、感謝されている。</li> <li>7. 子供達と接することにより、スタッフはコミュニケーション力を向上させなければならないので、刺激を受けている。</li> <li>8. 事業を始めたことで、人と人をつなぐ新たな社会的ネットワークができた。</li> <li>9. 子供達の放課後の居場所となっている。</li> </ol>	<p>(学校教育課) 地域の支援をいただきながら、子どもたちの学力向上に繋がるものとして、大変意味のある取組であると認識しています。地域の人たちが地域の子どもたちの健全育成に積極的に関わっていただいていることは意義深い。今後も子どもたちの居場所となり、国語や算数などの学習だけではなく、挨拶や礼儀など、生活上のルールや習慣についても身につけられるようにするなど、効果が見られるようになってきているので、今後も継続して実施していただきたい。</p>	<p>家庭教育がやや疎かになっている昨今、非常に有意義な取り組みであり、高く評価します。単なる学習支援のための事業ではなく、地域の教育力の向上、家庭での子育て力の補完という意味で、全市的なモデルとなる取り組みです。 また、施策への発展へつなげた功績は大きいものだと思います。今後は、施策として取り組むことで地域の独自性が薄れたりすることなく大学生などの若者などを巻き込みさらなる、事業展開をすることを願います。</p>
6	記憶の中の「生」再現プロジェクト	<p>平成24年度の「生」ライタアップについて 【実施日、内容、参加者数】 ①8月19日 (作業:7月29日) 草刈り、石積み、ライタアップ延べ40名参加 ②10月25日 (作業:当日) 草刈り、石積み、ライタアップ15名参加 ③1月16日 (作業:1月9日) 草刈り、石積み、ライタアップ延べ40名参加</p>	50,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生」は阪神・淡路大震災のメモリアルであるが、平成23年3月11日東日本大震災後、急速に「生」の活動が全国的に注目されてきた。</li> <li>2. 「生」への願いを抱いた人々が、それぞれの想いを共有する場である。</li> <li>3. 10月に実施された「船坂ビエンナーレ2013」逢楽映の石積み「再」と「生」は、大多田川、武庫川を経由して結びつける他市との協働プロジェクトや、「1. 17を忘れない」青少年からの発信! 赤い糸運動、「生展」などと連携することで、大きな相乗効果があった。</li> <li>4. NPO団体を介して武庫川右岸宝塚大橋北詰に、ステンレス製「生」の高級モニュメントを宝塚市に寄贈した。</li> <li>5. 記憶の中の「生」再現プロジェクトは、発展途上ではあるが活動を継続し、街の活性化につながっていきたい。</li> </ol>	<p>(政策推進課) 「生」の石積みオブジェについては、何度も流されては再現されることで、広く市民等に知られるようになることにも、まちの活性化に資する様々な活動と新たな連携が生まれてきていることは大変意義があると思います。 平成27年には、阪神・淡路大震災から20年目を迎えます。本プロジェクトの本来の目的を大切にしながら、今後も継続した取り組みを進められることを期待します。</p>	<p>宝塚の活性化につながるプロジェクトであり、阪神・淡路大震災や東日本大震災を風化させないためにも非常に意義深い取り組みです。今後は、民間のスポンサー獲得やマスコミを巻き込むなど資金面での自立を実現して、事業の発展と継続した取り組みを期待します。</p>
7	中山桜台自治会	<p>「空き巣を許さない安全・安心のまちづくり」</p> <p>【実施時期】 平成25年3月3日(日) 午後1時30分 【場 所】 中山台会館 【内 容】 防犯対策新時代「侵入盗から住まいを守る」のビデオ視聴後、自治会員同士で防犯対策についての意見交換を行う 【参加者数】 自治会員 45名</p>	50,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵入盗の立場から見て、侵入しやすい家などの事例の報告があり、分かっているつもりでいた防犯対策への注意点が、再認識できた。</li> <li>2. 不審者などへの地域の見守りや、コミュニティ力を高めることで、侵入盗だけでなく、訪問販売や押し買いなどの悪質商法の被害、振込め詐欺などの犯罪被害を未然に予防できるので、今後も継続していく。</li> </ol>	<p>(防犯交通安全課) 地域住民の間で防犯対策について話し合うことは、防犯意識の啓発につながり地域の防犯力が高まると考えます。 今後も防犯・トロールや声かけ活動等継続的な防犯活動を期待します。</p>	<p>地域住民の防犯意識を高め、住民が協力して防犯活動に参加することで住民相互の絆が強まり、被害を未然に防ぐ効果も期待できます。このような取り組みが全市的に広がることを期待します。</p>

No.	申込団体名	自己評価			評価	
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
8	特定非営利活動法人 アズイット	<p>「お宝探しネット」</p> <p>【実施時期】平成24年5月～9月 10月～平成25年3月</p> <p>【内容】システム設計(スマートフォン)システム開発(スマートフォン)情報提供者営業お宝さがしネット情報更新(パソコン)お宝さがしネットシステム改善(パソコン)お宝さがしネット地図更新お宝さがしネットチラシ制作お宝さがしネット(スマートフォン)サイトアップ</p>	85,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>「お宝さがしネット」のなかでも逆瀬川駅周辺に焦点をぼけて、情報提供者(店や企業)を増やすことができ、地域密着度が深まった。</li> <li>当法人「地域活動支援センターアズイット」及び「地域活動支援センターデザイン」の利用者と職員や近隣の方々から、行って良かった店や人に紹介したい会社などの情報を集めた。逆瀬川の「お宝」と思えるような所を、口コミ情報で営業に出かけ、情報提供者との交流が深まり、協力体制ができた。</li> <li>平成23年度構築の「お宝さがしネット」パソコン版の改良点についての話し合いや、スマートフォン対応のシステム開発、情報提供者のデータ更新などが「地域活動支援センターアズイット」利用者の仕事となり、地域貢献への参画意識の向上と自信につながった。</li> <li>同じ店(会社)に何度も営業で足を運ぶ活動自体が、地域の方々とのコミュニケーション(対話)力の向上につながり、社会参加の促進に役立った。</li> <li>2年をかけて基盤ができたので、今後 情報提供者とのつながりを深めていき、地域の活性化に貢献したい。Web有料情報提供者が1社だけという結果だったが、ネットPRの効果を示すことができるようサイトの告知を努めるとともに、サイトを見た人のお得感もできるように情報提供者と協力して策を練っていききたい。</li> </ol>	(障害福祉課) 障害者総合支援法に基づく地域活動支援センターの事業内容である障がい者の社会との交流の促進が図られたと考えます。	発想は良いと思いますが、実際の地域情報の質と量が重要と思われる。意図した効果が上げられたのか疑問です。行政側のアドバイスも必要だったと思われる。今後の拡充を期待します。
9	「ウィーン祭り」実行委員会	<p>「ウィーン祭」</p> <p>【実施時期、内容】平成24年 6月：イベント開催場所の調査(宝塚文化創造館など開催予定地の事前調査、調整) 7月：出演者探し(演奏者など)及び出演交渉 8月：イベントに向けた看板、展示パネル、協賛金獲得のための提案資料の作成 9月1日～8日：ウィーン訪問(観光取材、イベント時の展示関連資料収集) 10月中旬：ポスター、チラシ、フライヤ、プログラムの作成 10月20日：「ウィーン祭」事業実施 ・ウィーンをテーマとした演奏会(宝塚文化創造館、旧音楽学校記念公園ステージ) ・ウィーンカフェ(サンタクルスより一階カフェを賃借) 10月21日：「ウィーン祭Ⅱ」事業実施(宝塚市役所・市民ホール) ・オーストリアからの演奏家招致による演奏会の実施 ・ウィーン展示会 ・ウィーンカフェ 平成25年1月10日：宝塚市役所にて活動報告会実施(市長、市民団体など出席)</p>	250,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宝塚市民にウィーンと姉妹都市であることのPR</li> <li>1.市民のなかには、宝塚がウィーンと姉妹都市であることを知らない人も多く、「ウィーン パネル展示会」を行うことにより、ウィーンの魅力を知ってもらった。</li> <li>2.ウィーンより演奏家を招致し、演奏会を開催することで国際交流を行った。</li> <li>3.オーストリア大使館と連携し、海外演奏家による「民族楽器」演奏会を実施した。また、日本演奏家とのコラボレーション、市民参加による共同演奏による国際交流も実施することが出来て、大変盛り上がりがあった。</li> <li>●「国際観光都市」としてのアピール</li> <li>1.中心市街地で2日間 イベントを行うことにより、周辺都市からの来客も多く、宝塚を「国際観光都市」としてアピールすることができた。</li> </ul>	(国際文化課) ウィーン市第九区と宝塚市が姉妹都市であることから、「国際観光都市」宝塚をアピールし、隠れた観光資源に気付いてもらうことを目的とした当事業は、文化創造館・市民ホールを活用し、国際姉妹都市を周知する契機となったと考えます。また、満足したという意見が多かったことから、今後も「音楽のまち」としての中心市街地の活性化に貢献していただくものと期待します。	宝塚市の強みである音楽と姉妹都市のウィーンを大いに活用し、文化・音楽・国際交流など宝塚市のイメージ向上につながる取り組みです。また、宝塚市は「音楽回廊」という他の市では見られない行事を行っています。これらの行事と共催で、より広く市民に国際観光都市を意識づけ、周辺都市からの観光客を増やすための一助となったことを評価します。今後も民間のスポンサー獲得やマスコミを巻き込んだる事業としてさらに発展し、継続した事業展開を期待します。
10	長尾地区まちづくり協議会	<p>「災害時一人も見逃さない、避難所設置・運営マニュアル等作成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所設置マニュアルや宝塚市立長尾小学校に特化した行動マニュアルの作成に力を注いだ。</li> <li>①防災防犯部会の集まり 【場所】長尾ふれあい広場【回数】14回/年【参加者数】延べ168名</li> <li>②民生児童委員役員、自治会連合会の集まり 【場所】平井自治会館、山本文化会館他【回数】8回【参加者数】95名</li> <li>③民生児童委員役員、防災防犯部会、自治会会長の集まり 【回数】6回【参加者数】120名</li> <li>④民生児童委員、民生児童委員協力委員、自治会連合会の研修会 【回数】1回【参加者数】90名</li> <li>⑤3組織合同研修会 【場所】プラザコム、東公民館【回数】2回【参加者数】延べ110名</li> <li>⑥長尾小学校・長尾南小学校・丸橋小学校防災訓練、長尾南幼稚園避難訓練に参加</li> <li>⑦災害時要援護者台帳作成 【実施時期】平成24年10月～平成25年2月末 【内容】民生児童委員が、長尾地区65歳以上の独居人900軒を訪問して、同意書約600名収集</li> <li>⑧ハザードマップ 【内容】40名の民生委員が、地図をもとに確認作業中</li> </ul>	300,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>避難所設置マニュアル、長尾小学校に特化した行動マニュアル、施設利用計画などを作成することができた。しかし各避難所(学校)の建物にも特徴があり、残り4校に特化したマニュアルの作成を急ぐ必要がある。</li> <li>災害時要援護者リスト作成のため、40名の民生児童委員が担当地域を歩き、高齢者の見守り活動とともに同意書を回収することができ、それぞれの福祉票の申身が充実した。民生児童委員と高齢者や障害者が顔見知りとなり、安全安心の暮らしにつながった。</li> <li>個人情報取り扱いの協定をする必要があるため、要援護者台帳の管理と活用方法を、自治会連合会、民生児童委員協議会、宝塚市社会福祉協議会と話し合った。</li> <li>自治会会長と民生児童委員が、個人情報の取り扱いについて共通認識にするため、平成25年度から毎年研修会を開催する。</li> <li>「あいわ苑」の福祉避難所協定に対して、地域として関心をもち協力することとする。</li> <li>各学校での防災訓練や避難訓練に、地域住民の参加が多くなった。</li> </ol>	(総合防災課) 大規模災害において、行政だけでなく、市民が主体的に行動できるための「避難所運営委員会行動マニュアル」や災害時に自力で逃げ出せない方を助けるために必要となる「災害時要援護者リスト」、地域内の避難経路確認等のための「地域版のハザードマップ」をはじめ、地域においてお互いの顔が見える関係を構築するなど、本市において先進的な取組でもあり、他地域の模範や目標となり得る成果である。	マニュアル作成により地域住民の意識が高まり、災害発生時の協力体制を確認する機会となったことを評価します。地域の防災マニュアルのロールモデルとして他の地域にもこのような活動を広め、全市への普及を期待します。

No.	申込団体名	自己評価		評価		
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
11	六甲全山縦走大会 歓迎！ホッと宝塚市民の会	<p>「六甲全山縦走大会歓迎！ホッと宝塚」</p> <p>【予定開催時期】 11月11日(日)・11月23日(祝)(六甲全山縦走大会実行委員会に問い合わせた所、6月の会議で正式決定されとのこと)</p> <p>【実施時間】 16:00～23:30</p> <p>【会場】 宝塚駅交通広場内(テントを設置)</p> <p>【内容】 「ホッと宝塚」をキーワードに学生・商業者・地域団体・地域住民が協働で、下記の事業を展開</p> <p>① 全山完走者への無料休憩所を設置する ② 完走者を称賞する横断幕や拍手で歓迎 ③ 宝塚温泉を利用した足湯の設置 ④ 完走者へ甘酒、お茶、豚汁の温かい物の提供 ⑤ 名物の炭酸せんべいの提供 ⑥ 音楽で癒しの空間づくり ⑦ 完走者へ「はばタン」との記念撮影 ⑧ 特産品お土産販売コーナーの設置(ソリオ名店会、宝塚市商店連合会) ※本年は、販売委託品として売上の10%の徴収を交渉</p> <p>【参加予定人数】 4000人(各日2000人)</p>	200,000	<p>1. この事業の取り組みを、市民と力を合わせて活動することにより、普段の生活では得ることのできないネットワークが形成され、連携を深めていくことができた。</p> <p>2. 「おもてなし」により完走者に喜んでもらい、感謝の言葉を受けた。宝塚に訪れ方々が、「人にやさしく暖かい街」「ホスピタリティ豊かな街」「また訪れたい街」という、良質なイメージを持ったと確信した。</p> <p>●利用者数 ①甘酒 11日:394人 23日:378人 計:772人 ②豚汁 11日:408人 23日:432人 計:840人 ③足湯 11日:36人 23日:47人 計:83人 ●お土産販売売り上げ 11日:47,550円 23日:29,850円 計:77,400円</p>	(商工動労課) 市民のおもてなしの心を感じていただけるイベントだと思えます。学生が中心となっているので、世代交代の引継ぎなど大変かもしれませんが、今後もより多くの方に楽しんでいただけるイベントとなるよう期待します。	宝塚市のホスピタリティを示せる取り組みとして、学生たちの社会参画経験として、とても意義のある事業だと考えます。また、市民、学生、行政の連携の事業としても評価できます。今後、学生たちが前向きに関われるしくみ、しかけを主催者全員で考えつつ、市民主体で実行委員会の充実化、効率化をはかりながら民間スポンサーの獲得、お土産販売の強化などの工夫を通じて、自立型事業への発展に期待します。
12	メリーポピンズの会	<p>「当会の活動に対する市民の認知度を上げ、それを会員とタンポポ塾生の増強にむすびつける事業」(3年目)</p> <p>① タンポポ塾公開講座 【回数】9回 【参加者数】中川市長他 235名</p> <p>② 真夏のオープンガーデン(施設のお庭巡り名ツアー) 記録的な長期間の残暑のため、健康上の危険があると判断して、10月に「メリーポピンズ秋のオープンガーデン」を実施</p> <p>③ 新ホームページの充実 ・より魅力的にするため、平成20年に宝塚市が「知ってよ!宝塚」用に作成した当会を紹介する動画を編集して取り入れた。逆瀬台テイクサービスセンター庭の、大改修のお披露目の様子も動画導入した。 ・メリーポピンズ、タンポポ塾、資料編の3部制だったホームページに「秘密の花園」を加えて4部制とし、園芸活動に関心のある市民に、興味を持ってもらえるように工夫した。 ・「秘密の花園」には、「花壇の今」「心に残る庭」「こんな苗育てています」の3つのコーナーを設けた。 ・資料編の「園芸薬剤あれこれ」を充実し、クリックで病虫害の写真を見ることができ、今後のモバイル対応の準備段階に入った。</p>	285,000	<p>1. 当会のホームページへの努力がドコモに注目され、一層の充実のために支援を受けることになった。</p> <p>2. メリーポピンズの名を確立するための、努力が評価されて宝塚市の「モ・コト・バ宝塚」の対象として選定された。</p> <p>3. タンポポ塾は優秀な塾生を、定員の15名採用できた。</p>	(公園緑地課) 創意工夫のある事業により、本市の緑化推進に大きく寄与された。今後も継続的な緑化推進活動に期待します。  (いきがい福祉課) 福祉施設などの花壇づくりや園芸活動を通じて、施設と地域住民との交流を図り、地域福祉に貢献していた。	団体自身のホームページの積極的な露出が高く評価されます。独自性の高い事業で、緑化推進、地域福祉に貢献され、モデルとなる取り組みとして、全市への普及と花一杯の宝塚、というイメージをさらに広げるため、一層の事業展開を期待します。
14	宝塚コレクション実行委員会	<p>「第4回 宝塚コレクション 2013」</p> <p>【実施時期】 2013年3月31日(日) 12時30分～17時30分</p> <p>【場所】 ソリオ宝塚 GF メインプラザステージ周辺</p> <p>【内容】 元ジェンヌレピュショー、ファッションショー、フラワーショー、ビューティショー、ヘアショー、ベルばらステージ</p>	500,000	<p>1. 今年は歌劇100周年のプレ年度であり、元ジェンヌによるショーを強化することで、歌劇に興味のある人、これを機に興味を持ってもらえる人にアプローチができた。</p> <p>2. 宝塚市・観光課のテーマでもある「歌劇とともに、これまでも、これからも」にふさわしいイベントになり、宝塚らしさを強調できた。</p> <p>3. ソリオ宝塚や宝塚阪急などの商業施設も20周年となり、コラボレーションすることで多くの人が訪れ、賑わった1日になり、街の商業活性化にも寄与できた。</p>	(観光企画課) 翌年に宝塚歌劇100周年を控えている時期であり、市の中心部である宝塚駅前を会場に「宝塚歌劇」をイメージさせる無料イベントを開催したことでもメディアにも取り上げられ、参加者や周辺事業者に留まらず、広く市内外に「歌劇のまち宝塚」をPRできたと考えます。	宝塚の華やかさを表現したイベントでメディアを通じて周辺住民に限らず広く市内外に歌劇の街 宝塚をPRできています。市内の事業所の活性化という意味でも、この取り組みは宝塚にならぬものの一つであろうと思います。今後も宝塚市のイメージアップ、観光事業の活性化に寄与していただく事業展開を望みます。

No.	申込団体名	自己評価		評価		
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
15	つながりづくりネットワーク宝塚	<p>「みんなの防災カアップをめざして～まちと暮らしの安全網を築こう～」</p> <p>【実施時期】平成24年12月8日(土)</p> <p>【場 所】西公民館ホール</p> <p>【内 容】①南海トラフが動く地震が起こったら、宝塚でどんな被害が考えられるか、専門家の宇井忠英氏の講演。②神戸クロスロード研究会の浜南美さん、にしおさむ氏から、ファシリテーションによるクロスロードゲームを行う。</p> <p>【参加者数】71名(その他スタッフ 4名)</p> <p>【実施時期】平成25年2月23日(土)</p> <p>【場 所】宝塚市立男女共同参画センター・エル</p> <p>【内 容】①南海トラフが動く地震が起こったら、宝塚でどんな被害が考えられるか、専門家の宇井忠英氏の講演。②つながりづくりネットワーク宝塚ファシリテーションによる、クロスロードゲームを行う。</p> <p>【参加者数】48名(その他スタッフ5名 取材1名)</p>	300,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>約130名の参加者にクロスロードを体験してもらい、それぞれが防災について考え、実践するきっかけになった。(例:地域と小学校とコミュニティでクロスロードを実施)</li> <li>次の行動に結びつけるため、アンケートとふりかえりシートの記入を促してもらった。(参考資料添付)</li> <li>行政職(市役所、消防署、警察、小学校)、専門職(宝塚社協、地域包括、民生、児童館)、地域(自治会、コミュニティ、防災リーダー、PTA)視力障害者協会、ろうあ協会、ボランティア団体などからの参加があり、一般参加者とのつながりができ、それぞれの領域で関係性を築くと思う。</li> <li>今年度参加した方々とともに、それぞれの領域に合ったクロスロード問題づくり、ファシリテーションのやり方の学習など、次年度につながる事業を展開する予定である。</li> </ol>	(総合防災課) クロスロードを活用した防災啓発ワークショップには、多くの地域の方々(自治会・まち協・ボランティア団体等)の参加があり、防災や減災への意識の啓発につながった。これを機に、地域における助け合いが進み、地域の防災力がアップすることが期待できる。	市民ひとり一人が防災を考えるツールとしては、効果的なものの一つであると思います。市民を巻き込むファシリテーションの技術と考え方の普及と言う意味でも更なる広がりを期待します。ただ、ワークショップを開催することが目的化する、ということのないように進めて欲しいと思います。地域の防災力向上に資する事業の展開を期待します。
16	災害対策委員会	<p>「中山台コミュニティエリア全域における防災訓練事業」</p> <p>●定例会議 【実施時期】毎月第2火曜日18時30分～【回数】11回</p> <p>【内 容】参加団体から代表者が集まり、ワークショップを取り入れ防災意識の向上をはかり、大規模避難訓練を計画【参加者数】30～40名</p> <p>●防災カアップバスツアー 【実施時期】平成24年9月1日</p> <p>【内 容】「兵庫広域防災センター」と未済防災センター」のバスツアー。地域内で、防災士を目指す人の参加を呼びかけたら、24年度中に防災士認定者4名発掘。参加者は、起震車、煙、放水を体験し、兵庫県の備蓄倉庫を見学。【参加者数】183名</p> <p>●HUG(避難所運営ゲーム) 【実施時期】9月～10月に5回【場 所】宝塚市中山台コミュニティセンター</p> <p>【内 容】&lt;第1回&gt;行政関係者(総合防災課、きずなづくり室、教育委員会、学校)と役員が体験。防災意識の向上と、避難所運営のリーダー人材の育成に効果があった。 &lt;第2回～3回&gt;委員及び大規模避難訓練スタッフが体験。 &lt;第4回&gt;中山台コミュニティセンターのスタッフが体験。 &lt;第5回&gt;第六地区自治会連合会役員を対象に体験学習を実施。その後、単位自治会へ防災学習ツールとして紹介するために、体験学習を実施。</p> <p>●第2回大規模避難訓練 【実施時期】平成24年12月2日【場 所】指定避難所(中山桜台・中山五月台小学校、中山五月台中学校、宝塚東高校) 予備避難所(中山台コミュニティセンター) 福祉避難所</p> <p>●まちづくり協議会連絡会プレゼンテーション 【実施時期】平成25年1月20日</p> <p>【内 容】まちづくり協議会連絡会からの要請で、コミュニティ会長と委員長が、委員会活動と大規模避難訓練についてプレゼンテーションをした。</p> <p>●大規模避難訓練全体反省会 【実施時期】平成25年2月13日【場 所】中山台コミュニティセンターホール</p> <p>【内 容】大規模避難訓練当日、スタッフを対象にワークショップ形式で、感想、今後の取組みを話し合っ、25年度の活動計画の情報をまとめた。</p> <p>●今後の取組みのための学習会 【実施時期】平成25年3月13日【場 所】中山台コミュニティセンターホール【参加者数】26名</p> <p>【講 師】 佛教大学 福祉教育開発センター 後藤至功氏</p> <p>【内 容】テーマ:「これからの地域での災害時の取組みについて」～災害時要支援者支援の必要性、避難所運営の在り方、日常的な訓練活動のすすめ～ 社会福祉協議会主導で、委員を対象に実施した学習会。 有識者より、事例紹介や指導を受け、自治会、民生児童委員など、今後の地域災害対策にかかわる立場の人を中心に、中山台コミュニティエリアの条件に合った災害対策活動を考えるための、知識を取得した。</p>	300,000	<ol style="list-style-type: none"> <li>この事業を行うにあたり、委員会は宝塚市の方針を、総合防災課に確認しながら活動してきた。結果として、市民と行政がともに中山台コミュニティエリアの防災力が向上し、委員会事業にかかわることで、宝塚市が推奨する「協働のまちづくり」の取り組み事例を多くの人に知ってもらうことができたとする。</li> <li>HUG(避難所運営ゲーム)の導入は、23年度末に当委員会から総合防災課へ情報を提供し、当委員会がゲームを購入した。行政関係者と初体験をして、市民主体の協働の取り組みとなった。</li> <li>避難所運営学習と避難所リーダー育成のためのツールとしてゲームの効果を確認後、体験者のエリアを宝塚市第六地区に拡大し、単位自治会長もHUGを体験した。防災学習と災害対策への取り組みのツールの紹介として、役立つことができた。</li> <li>大規模避難訓練は、総合防災課の協力のもと、全市の自治会へ参加を呼びかけた。11団体からの参加があり、中山台コミュニティエリアから全市にむけて、訓練の必要性を発信することができた。</li> <li>宝塚市まちづくり協議会連絡会からの要請で、委員会活動を紹介したことは、「まち協のエリア内で、各種団体が協力して災害時の備えをすることができる」ことを示し、他地域の活動への啓発に、成功事例として大きな影響を与えたと思われる。</li> </ol>	(総合防災課) 宝塚市の中でも先進的に昨年度「地域防災マップ」を作成するなど地域の防災力を高めるための活動を行っている。昨年度の実績を含め、避難所運営学習などより実践的な手法を導入し、様々な問題点も検証しながら災害対策への取組として効果的なものとなった。 大規模避難訓練については、他自治会も見学などの呼びかけを行うなど、協働のまちづくりにも寄与した事業であると考えている。	地域の防災力を高めるために積極的な活動が行われていることを高く評価します。防災に強い地域づくりのロールモデルとなる効果的な事業とされます。他地域にも広く呼びかけ、全市的規模で取り組みが出来れば理想的です。市民を巻き込むこの事業の更なる展開を期待します。

No.	申込団体名	自己評価			評価	
		事業概要	決定額(円)	効果	担当課意見	審査委員意見
17	環学OB会	<p>「みどりのカーテン事業とその普及の促進」</p> <p>●みどりのカーテンつくり 【実施時期】 平成24年4月2日～平成25年3月29日 【場 所】 勤労市民センター 【内 容】</p> <p>①用土つくり、苗の購入、資材・用具の購入 (4月9日～5月13日：2～5名) ②苗植え付け、朝顔・ゴーヤ・フーセンカズラ (5月13日：10名) ③刈り取り、撤去 (10月25日：10名) ④水やり、収穫、温度測定 (5月13日～10月25日：毎日1～7名) ⑤まとめ、報告書づくり (10月25日～3月29日：3名)</p> <p>●市民との交流会 ①学習会 4月2日 勤労市民センター あいあいパーク山尾店長の講義、実習 ②講習会 5月13日 勤労市民センター 富山昌克氏の講演、講習、植え付け実践 ③市民交流会 8月6日 勤労市民センター 収穫物 ゴーヤ等の料理試食会</p>	250,000	<p>1、緑のカーテンによる温度低下効果(7/10～10/20) 1)緑のカーテン有無箇所の温度差：平均 9.8℃、MAX13℃ 2)最高気温の高いほど温度差は大きく、MAXは8月11日～20日に見られた(緑のカーテン無箇所、最高47℃) 2、本事業を通しての一般市民とのきずなづくり TOTAL 延べ約500名と交流</p> <p>1)集会出现者 学習会(4/2) 10名 講習会(5/13) 35名 市民交流会(8/6) 32名 2)植物育成現場での市民との交流 430名</p> <p>3、本来の目的である一般市民の、「緑のカーテンへの参加」呼びかけのためのKNOW-HOW(PR用小冊子、ちらしの原稿)が取得でき、「きずなづくり」の基盤ができた。</p>	(環境政策課) 勤労市民センターを拠点として、緑のカーテンの育成や講習会等を開催することにより、植物に親しみながら夏季の節電対策にも効果がある緑のカーテンを広く市民に普及啓発することができました。今後、同様の活動を継続し、また、更なる事業展開を図ることにより、緑のカーテンが宝塚市に根付き、緑のカーテン愛好者の交流が深まることを期待します。	緑のカーテンの効果を実証し、市民に普及啓発できたことを評価します。環境に優しい取り組みとして市民が自宅で取り組めるきっかけを与えたこととして効果的ですが、カーテンの大きさに費用がかかっていることが課題であり、工夫してコスト削減モデルを実現し、全市への普及を期待します。
18	宝塚武庫川灯籠流し実行委員会	<p>「第8回 宝塚の灯籠流し」</p> <p>【実施時期】 平成24年8月19日(日) 午後5時～午後9時 【会 場】 武庫川・宝塚観光ダム(宝来橋下流左岸河川敷)周辺 【内 容】</p> <p>17:00 カヌーの試技(宝塚カヌーボロクラブ)、会場内キャンドル点灯 屋台営業開始(かき氷、焼きそば、フランクフルト他) 河川敷会場内協賛団体等灯籠、こども灯籠、光のオブジェ点灯 18:30 オープニング(宝塚市長、実行委員長挨拶) 18:40 宝塚歌劇団OG79期生 絵莉 千晶さん「宝塚の歌」独唱 19:00 小林こどもエイサー隊(沖縄エイサー) 大野良平氏指導により、みんなで「宝塚市章」点灯 19:20 灯籠流し開始(数回に分けてカヌーで牽引) 河川敷会場内協賛団体等灯籠、こども灯籠、光のオブジェ点灯 21:00 終了宣言 【参加者数】 約4,000人 ボランティア 約120人</p> <p>※8月18日(土)午後3時20分 大雨洪水警報発令につき、急遽、翌19日に順延。</p>	500,000	<p>1・宝塚らしさを大切にしている8年目の開催となり、夏の風物詩としての存在を市内全域に浸透してきた感がある。また、阪神間からの参加が増加の傾向にある。</p> <p>2・参加の年齢層が、高齢者主体から多世代参加型へと変化がみられる。</p> <p>3・周辺事業者のイベントへの理解と期待が高まってきた。</p> <p>4・イベントを通じて河川敷の市民利用が高まってきた。</p> <p>5・イベントを通じて武庫川を挟んだ住民同士が交流する良いきっかけとなっている。</p> <p>6・「宝のホタル」(LED球)は活用の仕方と斬新な発想で好評を得た。</p>	(商工勤労課) 夏のイベントとして浸透してきたと感じており、地域の活性化に寄与するイベントとして今後も継続されることを期待しています。また、実行委員会メンバーの次世代育成も願っています。	・宝塚市民のみならず近隣住民にも認知され、恒例のイベントとして定着してきており、市のPRに寄与しています。宝塚市のイメージ向上につながる取り組みとして、今後も継続した事業展開を期待します。周辺事業者の理解を深め、多世代の人々が参加するイベントとしてブランド化され、民間スポンサーやマスコミを巻き込んだ自主自立型事業への発展に期待します。

3,234,000